

編集後記

<高田 洋>

症例・研究特集号を手にする時、私はいつも学会の地方会に出席する時に似た何かしらわくわくするような期待感をもってその頁を繰るので、私共の短い生涯を通じての臨床経験でも、あるいは遭遇しないかも知れない稀な症例や、ささやかではあるが実際の診療に則した新しい工夫やアイデアをその数々の報告の中に見出すことがあるからです。またある場合には、あの時のあの症例は、あるいはこの疾病であったのではなかろうかと新たな反省の資を与えてくれるからです。

経験を基礎にして組立てられている臨床医学の場では、他人の経験を自分の知識の資として絶えず問題意識をもつことによって我々は次の誤診から救われることを銘記すべきだと思います。本号にも数多くの貴重な症例が掲載されましたが、どれをとってみても教唆に富む報告ばかりです。読者各位の血となり肉となる事を念じます。

研究欄の微細血管構築の面からみた胃潰瘍の治癒および再発に対する検討は長年に亘る丸山氏らの研究成果の一部であります。X線内視鏡診断および病理学的検討からその解明にとりくまれてきたテーマに対して別の角度から検索された報告で、多くの示唆を与えるものとして感銘深い論文であります。また三戸氏らの噴門部早期胃癌の診断についての論文も読者各位には明日からの日常臨床に早速役立つものであらうと期待します。

各位の本誌によせられている信頼と、より一層立派な専門誌に育てあげようとする御努力を感謝しつつ擱筆します。

<編集> 早期胃癌研究会